

復興へ向けての歩み

～大崎市震災復興基本方針の概要～

市では、東日本大震災の甚大な被害から、市民の皆さんと一緒に復興に取り組んでいくための基本的な理念や方向性を示した「大崎市震災復興基本方針」を策定しました。

そして、その基本方針を基に、更に具体的な復旧・復興の取り組みを盛り込んだ「大崎市震災復興計画」の策定に取り組んでいます。

大崎市震災復興計画の策定に当たっては、市民、議会、専門的な知見を有する学識経験者などの意見を反映していくことが重要となるため、有識者による懇話会や市民代表を含めた市民会議を設置して、活発に議論が重ねられています。

◎政策課震災復興推進室
☎2129



古川第一小学校の仮設校舎が完成し、7月4日から仮設校舎の教室で授業が再開されました。(写真①②) 間もなく解体される木造校舎を前に、復興支援のツアーでふるさとを訪れた東京古川会の皆さんが別れを惜しんでいました。(写真③) 古川東中学校の美術部は、暑い夏に向けて、沿岸部から避難している人たちのために手づくりのうちわをプレゼントすることを思いつき、7月1日に中新田交流センターで避難生活を送っている南三陸町の人たちに直接手渡しました。(写真④⑤) 古川東中学校では、2学期から3学年そろって仮設校舎での授業が始まります。2年生が約3カ月通っていた古川北中学校で、7月19日にお別れ会が開かれました。(写真⑥)

INTERVIEW 復興への思い

それぞれの人の思いを込めて 心に残る花火大会にしたい

おおさき青年会議所・おおさき花火大会実行委員長
佐藤孝宣^{たかのぶ}さん(古川地域)



東日本大震災で、例年花火の打ち上げ会場となっている江合川河川敷の堤防が崩壊、私たち実行委員会のメンバー自身も被災し、大きなダメージを受けました。「今年は、花火大会どころではない」「イベントよりも復旧に力を入れよう」震災の直後、一度は開催を断念しました。

四月七日、大きな余震で被害が拡大し、落胆する多くの人の声を聞きました。「このままではいけない」寂然としない思いを強く感じました。そもそも青年会議所は、敗戦で焼け野原になった日本を若い力で復興しようという志で設立された団体です。「震災が起きた今こそ復興のための希望の花火を打ち上げよう」「自分たちがやらなければ」という気持ちに変わっていききました。

河川の復旧工事も思いのほか早く、河川事務所との話し合いで、見物のための堤防を使うことはできないものの、打ち上げる場所だけは借りることができそうな状況が見えてきました。

打ち上げ場所をいつもより少し変えれば、吉野作造記念館の駐車場からもよく花火が見えるので、メイン会場にできることもわかりました。



▲古川第一小学校の児童と実行委員のメンバーと一緒に街頭で募金活動。
※おおさき花火大会は13ページ「大崎のまつり」でお知らせしています。

「やろう！」もう実行委員会のメンバー全員が、開催することに迷いはありませんでした。協賛金を集めるために企業を訪問した際「よく開催を決めた」と喜んでくれる声を聞くと、花火大会を中止せずに活動を再開してよかったと実感します。

本店が津波で流され、支店のある大崎市で再起を図ろうとして欲しい」とわざわざ協賛金を届けていた時は、胸が熱くなりました。

今年の花火大会は、失いかけた夢を取り戻すため、笑顔を取り戻すため、ふるさとの復興のために、皆さんの思いを込めた花火大会にしたいと思います。心を一つに、震災を乗り越えていくために。